

東京「大泉 風のがっこう」
体験レポート

野菜作りは
こんなに楽しい!



Vol.1



↑野菜作り講習会では、白石さんが土の耕し方、タネまき、苗の植え付けなど、実際に作業しながら教えてくれる。

教わる人



かん しのいちろう
菅野 俊一郎

コピーライター。50代になって、ふとしたきっかけから「大泉 風のがっこう」で人生初の野菜作りに出会う。野菜を育て味わう楽しさに魅了されて、まもなく10年。その間、白石さんの教えを守らず失敗した経験多々。今回は基本的に忠実に実践!

教える人

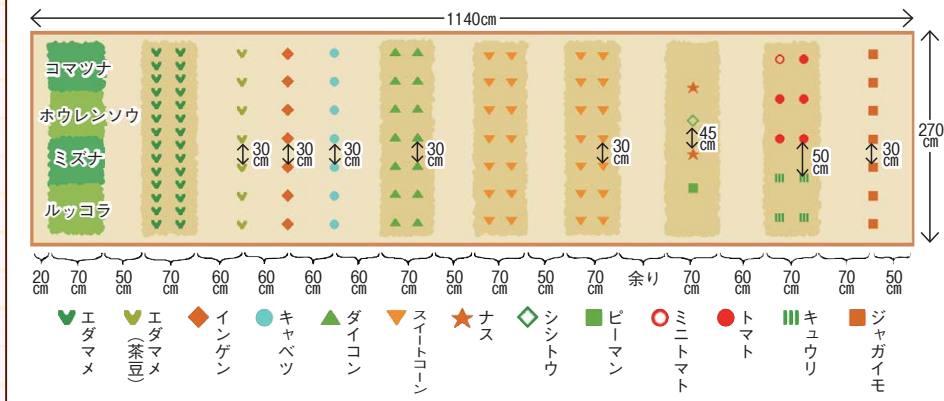


しらいし よしたか
白石 好孝

東京都練馬区大泉で300年続く白石農園・園主。同敷地内で農業体験農園を主宰。実践で培ったノウハウを体験農園での指導に生かし、野菜作りの魅力を多くの生徒たちに伝えている。NPO法人「畑の教室」代表。

「大泉 風のがっこう」についての詳細は東京都練馬区のホームページをご参照ください。
<http://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/nogyo/hureai/taikennoen.html>

野菜作り予定表 (3~8月)



長さ11.4m、幅2.7mが基本のスペースを、可能な限り有効に使えるように白石さんが考えたレイアウト。この表に従って野菜作り講習会が行われ、生徒たちが実践していく。

小さな畑をより楽しむための
ノウハウがここにはいっぱいある!

東京都練馬区大泉町。ここで農業を営む白石好孝さんが指導にあたる野菜のカルチャースクール、それが農業体験農園「大泉 風のがっこう」です。小さな畑でもさまざまな種類の野菜を豊富に収穫できるという、白石さんが教えてくれる実践的なノウハウは、家庭菜園でも大いに参考になります。そこで農業体験農園の利用者である菅野俊一郎さんに、毎回、生徒の目線で「大泉風のがっこう」の授業をレポートしていただきます。

「小さな畑でも八百屋の店頭にも並ぶものにも負けない野菜を年間20種以上も収穫できますよ!」

「大泉 風のがっこう」校長の白石さんは江戸時代から300年続く農家の当主です。約20年前まではキャベツの市場出荷が主でしたが、大産地との競争や急速な都市化の中、少量多品目の直売農業に活路を求めました。そして、1997年から野菜のカルチャースクール、農業体験農園を手掛けるようになりました。

この農園には、1区画当たり約30㎡の農地が現在137区画あります。農園利用者は白石さんの指導を受けながら土づくりから野菜のタネまき、苗の植え付け、肥培管理、収穫と、農作業すべてを体験できます。野菜のタネはもちろん、クワやシャベル、肥料など必要なものも用意されています。

最初の講習会で配布される「野菜作り予定表」には、ダイコン、キャベツ、トマト、キュウリ、ナス、スイートコーンなど春から夏に収穫できる食卓の定番がずらり。「自由に好きなものが作れるわけではありませんが、八百屋の店頭にも並ぶものに負けない野菜を年間20種以上も収穫できます」と、白石さん。その指導には、周年生産の作付け計画、おいしい品種選び、連作障害を避ける輪作体系の研究、農業を減らす技術といった、プロならではのさまざまなノウハウが詰まっています。

例えば株間を30cmにするか35cmにするか。小さな畑で、なるべく多くの野菜を作りたいければ、株間は狭くしたくな

春先から夏まで、畑の景色はこんなに変わります！



3月14日 ↑啓蟄（けいちつ）を過ぎた3月第2週から「大泉 風のがっこう」新学期が始まる。有機質をたっぷり含んだ土はふかふか。



5月6日 ↑春の野菜作り予定表通りに、すべての植え付けが完了。トマトやキュウリの遅霜対策のための寒冷紗（かんれいしゃ）もそろそろ不要に。



6月28日 ↑5月後半からキュウリ、ダイコン、キャベツ、ナス、インゲンなどを収穫。スイートコーンやトマト、エダマメも順調に生育。



7月7日 ↑キュウリやトマトは生育真っ盛り。最初の講習会で植えたジャガイモを収穫。掘り上げた後は、秋まで畑を休ませる。



夏の果菜類にジャガイモ。1日でこんなに収穫！

夏野菜の収穫時期はわが家の食卓もカラフルに。とりたてのキュウリやナスのみずみずしさは、一度知ったらやみつきに！

るものです。でも、狭すぎて風通しが悪くなるとは害虫や病気の発生が心配。そんな時、白石さんが教えてくれるのは、できるだけ多く収穫できて、しかも病害虫の被害を生じさせないギリギリの数値、白石さんが長年の経験から得た具体的な数値です。農家としての経験に裏付けられた実践的なノウハウが学べることは、私たち生徒にとって本当に心強いものです。

「これほど野菜作りが性にあうとは自分でも意外でした」

私が「大泉 風のがっこう」と出会ったのは50代になってからです。その前から地域のPTA活動を通じて白石さんと顔見知りでしたが、体験農園については何も知りませんでした。ある日、妻が勤め先の同僚から「借りている畑を誰かに譲りたい」と相談され、それなら譲ってもらおうということになりました。その畑というのが「大泉 風のがっこう」でした。

最初のうちは妻と私と一緒に仲よく畑に通っていましたが、いつの間にか私が育てた野菜を妻が料理する、そんな役割が定まって今日に至っています。自宅で仕事する私は、自由に時間を使える、身体を動かすと気分がリフレッシュするなど、いろいろ理由をつけて週2〜3回は畑に通っています。そして草取りや害虫駆除などの作業もなぜか飽きることもなく続けられます。これほど野菜作りが性にあうとは、自分でもつくづく意外です。

この体験レポートでは、2014年春から撮影がスタートし、実際に畑で起きたことを書き留めています。白石さんの指導のおかげでおいしく育った野菜もあれば、教えの甲斐なく失敗してしまったものもあります。いずれにしても私が経験した野菜作りに関するささやかな記録にすぎませんが、小さな畑で野菜作りを楽しむ多くの方々の参考になればうれしい限りです。